

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3625860号
(P3625860)

(45) 発行日 平成17年3月2日(2005.3.2)

(24) 登録日 平成16年12月10日(2004.12.10)

(51) Int.Cl.⁷

F I

A 4 7 C 17/38

A 4 7 C 17/38

Z

A 4 7 B 5/04

A 4 7 B 5/04

A 4 7 C 17/52

A 4 7 C 17/52

Z

請求項の数 4 (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願平6-156216	(73) 特許権者	592170536
(22) 出願日	平成6年7月7日(1994.7.7)		ヘーフェレ ゲゼルシャフト ミット ベ
(65) 公開番号	特開平7-143924		シュレンクテル ハフツング ウント コ
(43) 公開日	平成7年6月6日(1995.6.6)		ンパニー
審査請求日	平成13年5月1日(2001.5.1)		ドイツ連邦共和国 ナーゴルト アードル
(31) 優先権主張番号	G9310160.0		フーヘーフェレーシュトラッセ 1
(32) 優先日	平成5年7月8日(1993.7.8)		Adolf-Haefele-Str. 1
(33) 優先権主張国	ドイツ(DE)		、Nagold
		(74) 代理人	100061815
			弁理士 矢野 敏雄
		(74) 代理人	100094798
			弁理士 山崎 利臣
		(74) 代理人	100099483
			弁理士 久野 琢也

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 旋回可能な家具用の取付け具

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

旋回可能な家具、特に折り畳み式ベッド(4)を壁等に結合するための取付け具であって、当該取付け具が、保持部材(3)と、壁側の固定部材(2)とを有しており、該固定部材(2)がウェブ(19)と当付け面(20)とを備えており、該当付け面(20)が、壁とは反対の側で壁に対して平行に前記保持部材(3)と少なくとも部分的にオーバーラップしている形式のものにおいて、保持部材(3)に、家具用の支承部、家具の少なくとも1つの旋回脚ロッド(9)用の支承部および/または家具の旋回運動時に緩衝作用を及ぼすもしくは重量負荷を軽減する装置用の支承部が設けられており、U字形固定部材として形成された固定部材(2)が、ウェブ(19)の少なくとも2個所で壁に結合可能であり、ウェブ(19)が、案内面(21, 22)によって組込位置で保持部材(3)の、重力方向で下方に向けられた面を支持するように該面に下方から係合しており、当付け面(20)がウェブ(19)から前方へ突出していることを特徴とする、旋回可能な家具用の取付け具。

【請求項 2】

当付け面(20)が、保持部材(3)との結合のために、互いに間隔を置いて配置された2つの固定用舌片にそれぞれ1つの孔(15a, 16a)を有しており、該孔(15a, 16a)が、保持部材(3)の目標位置で、該保持部材(3)に設けられたそれぞれ対応する孔(15b, 16b)と整合するようになっている、請求項1記載の取付け具。

【請求項 3】

10

20

ウェブ(19)が、家具の旋回運動方向に対して横方向で当付け面(20)に対して両側で、それぞれ1つの案内面(21, 22)を形成する突出部を有している、請求項1または2記載の取付け具。

【請求項4】

保持部材(3)が直接に壁に結合可能である、請求項1から3までのいずれか1項記載の取付け具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本発明は、旋回可能な家具、特に折り畳み式ベッドを壁等に結合するための取付け具であって、家具用の支承部、家具の少なくとも1つの旋回脚ロッド用の支承部およびまたは家具の旋回運動時に緩衝作用を及ぼすもしくは重量負荷を軽減する装置用の支承部が設けられている形式のものに関する。 10

【0002】

【従来の技術】

特にスペースが狭い場合、その都度一時的にのみ使用される家具は、スペース節約のために旋回可能に構成される。従って例えば折り畳みテーブル並びにいわゆる折り畳みベッドはキャビネット状のケーシング内に枢着されていてかつ使用後旋回させてケーシング内に収容することができ、この場合、折り畳みベッドは不使用期間に亘ってスペースを節約して収容される。旋回可能な家具を所属の壁に結合するためには適当な取付け具が用いられる。 20

【0003】

例えば折り畳み式ベッドの場合前記取付け具には、ベッドフレーム用の回転支承部の他に通常ロッド用の支承部が設けられていて、このロッドを介して折り畳み式ベッドの旋回可能な脚部は、ベッドフレームを所定の位置にもしくは所定の位置から旋回させる場合に、ベッドフレームに対して平行にもしくは垂直に旋回させられる。

【0004】

更に、比較的重い家具の場合特に補助装置が使用され、この補助装置により、家具の引出し旋回時に家具運動が緩衝され、かつ、重量負荷が軽減されることによって家具の押込み旋回が容易にされる。このような補助部材、例えばガスばねも1つの側辺で取付け具に支承されている。 30

【0005】

公知の取付け具は一体に構成されている。取付け場所での組立てを簡単かつ迅速に行うために、折り畳み式ベッドは製造業者側から、ガスばね及び旋回ロッドの取付け具側の支承個所に結合された予め取付けられた取付け具と共に供給される。

【0006】

これによって、折り畳み式ベッドのスムーズな旋回性が保証され、しかも、ベッド収容部内部でのベッドフレームの傾きに基づく折り畳み式ベッドもしくはベッド収容部の損傷を阻止するためにベッドフレームがベッド収容部内で正確に調整されるようになる。このことはベッド収容部の壁において取付け具を適当に調節して、固定することによって行われる。 40

【0007】

従来の取付け具の場合、正確に調整することは極めて困難である。従って、ベッド収容部の壁における取付け具の固定個所をマークするために、予め取付けられた取付け具とベッドフレームと旋回脚ロッドとガスばねとから成る機構全体がベッド収容部内に嵌め込まれて、ベッド収容部内で調節されねばならない。

【0008】

しかしながら、特に比較的重量が重いため並びにベッド収容部内部の狭いスペースに基づいて、折り畳み式ベッド・機構の操作は極めて困難である。この結果、折り畳み式ベッドの調整精度が低下しかつこれに基づき後で使用した場合に家具が損傷されるようになる。 50

【 0 0 0 9 】

【 発明が解決しようとする課題 】

本発明の課題は、簡単に、迅速にかつ正確に位置決めできしかも旋回可能な家具を所属の壁に容易に正確に据付けることのできる、冒頭に述べた形式の取付け具を提供することにある。

【 0 0 1 0 】

【 課題を解決するための手段 】

前記課題は本発明によれば、取付け具が壁側の固定部材と、この固定部材に回動不能に結合される保持部材とを有し、固定部材が保持部材を位置決めするよう構成されていてかつ保持部材に支承部が設けられていることによって、解決された。

10

【 0 0 1 1 】

【 発明の効果 】

このような２部分から成る取付け具によって一方では、取付け場所で予め取付けられた取付け具を備えた家具、特に折り畳み式ベッドを準備することができ、この場合取付け具の支承部は既に製造業者側で、例えばベッドフレーム、旋回脚ロッドおよびまたはガスばねのそれぞれの支承装置に結合されている。

【 0 0 1 2 】

同時に、ベッド収容部内部で折り畳み式ベッドを正確に位置決めして固定するために最早折り畳み式ベッド・機構全体を操作する必要はない。むしろ本発明の取付け具においては、固定部材として用いられる、折り畳み式ベッドに予め取付けられない取付け具部分のみがベッド収容部の内壁において組込ゲージを用いて調節されて、固定されればよい。

20

【 0 0 1 3 】

次いで折り畳み式ベッド・機構全体はこれに予め取付けられた取付け具の保持部材によってそれぞれの固定部材に取付けられて、固定部材に結合される。固定部材に設けられた、保持部材を位置決めするための手段に基づき、折り畳み式ベッド・機構全体は調節された固定部材に保持部材を取付けた場合に難なく正確に調整される。

【 0 0 1 4 】

従って、折り畳み式ベッド並びに別の旋回可能な家具の取付けは著しく容易になる。取付けを簡略化することは特にドゥー・イット・ユアセルフ (Do - i t - y o u r s e l f) 時代において特に重要である。

30

【 0 0 1 5 】

構造的にできるだけ簡単な措置によって家具を正確に調整できるようにするために、本発明の有利な構成では、保持部材が少なくとも１つの側辺で固定部材の縁部に支持されている。この場合、固定部材の縁部は折り畳み式ベッド・機構を位置決めする際に保持部材用のガイドとして用いられる。

【 0 0 1 6 】

同様に有利には固定部材に、ウェブ、並びに、組込位置で保持部材に少なくとも部分的にオーバーラップする当付け面が設けられていて、この場合、固定部材はウェブの少なくとも２個所で壁に並びに当付け面の少なくとも２個所で保持部材に結合可能である。従って最小の固定手段で折り畳み式ベッドを調整しかつベッド収容部の壁に固定することができる。

40

【 0 0 1 7 】

固定部材のこのような構成によって、ベッド収容部内に折り畳み式ベッド・機構を嵌め込む場合に折り畳み式ベッドに予め取付けられた保持部材は固定部材の当付け面とベッド収容部の壁との間にそれぞれ残されたギャップ内に押し込まれる。この位置では保持部材ひいては折り畳み式ベッド・機構全体はベッド収容部の壁に対して横方向でも固定される。

【 0 0 1 8 】

当付け面とベッド収容部の壁との間に残されたギャップ内での嵌め込まれた保持部材のガタつきを回避するために、突出量、即ち家具の旋回運動方向に対して横方向で当付け面に対してウェブが有しかつベッド収容部の壁と当付け面との間のギャップ幅を規定する突出

50

量が、ほぼ保持部材の厚さに等しく設定されると、有利である。

【0019】

ウェブが当付け面に対して両側で突出する場合には、単一の固定部材を右側壁にも左側壁にも取付けることができる。固定部材を右側壁でも左側壁でも使用できることによって、固定部材をストックできしかも組立て作業が簡単になるという利点を得られ、この場合、ベッド収容部のどの壁にどのような構成の固定部材を配属するかを最早考慮せずに済むようになる。

【0020】

特に比較的重い家具の場合有利には、保持部材が所属の固定部材に固定されるばかりでなく、壁にも結合される取付け具を使用することができる。

10

【0021】

【実施例】

第1図の第1実施例で図示の取付け具1は、U字形固定部材として構成された固定部材2と、支承プレートとして構成された保持部材3とを有している。取付け具1はベッド収容部の壁(図示せず)に折り畳み式ベッド4を固定するために用いられる。

【0022】

折り畳み式ベッド4はベッドフレーム5において支承アイ6を介して支承プレート3の支承軸7に回転可能に保持される。更に支承プレート3は旋回脚ロッド9用の支承軸8とガスばね11用の支承軸10を有している。支承プレート3とは反対側の端部(第1図では図示せず)では旋回脚ロッド9並びにガスばね11はベッドフレーム5に支承されている

20

【0023】

U字形固定部材2はねじ結合部材12, 13, 14, 15, 16を介してベッド収容部の側壁(図示せず)に固定されている。この場合ねじ結合部材15, 16は同時に支承プレート3を固定するのに用いられ、この支承プレート3は更にねじ結合部材17, 18を介して壁に固定されている。

【0024】

第2図及び第3図から明らかなように、U字形固定部材2は孔12a, 13a, 14aを備えたウェブ19並びに孔15a, 16aを備えた当付け面20を有していて、ウェブ19の材料厚さは当付け面20の材料厚さを上回っている。従ってウェブ19は、それぞれ突出量dだけ横方向で当付け面20の両側から突出している。

30

【0025】

このようにして、ウェブ19と当付け面20との間の移行部において当付け面20に対して垂直に延びる案内面21, 22が形成される。U字形固定部材2の案内面21, 22の形状は第4図で図示の支承プレート3の外郭に適合している。

【0026】

ベッド収容部内に組み込むために折り畳み式ベッドは製造業者側から、支承プレート3を予め取付けた状態で供給される。この場合、ベッドフレーム5、旋回脚ロッド9及びガスばね11は支承軸7, 8, 10において支承プレート3に結合されている。

【0027】

40

折り畳み式ベッドを組立てる場合、まず当該ベッド収容部の両壁にそれぞれ1つのU字形固定部材2が取付けられる。このことは有利には、互いに向き合って位置する収容部の壁においてねじ結合12, 13, 14, 15, 16の位置を規定する組込ゲージを用いて行われる。

【0028】

それぞれの壁にはまず孔12a, 13a, 14aのところにおいてのみU字形固定部材2がねじ結合される。U字形固定部材2を固定した後で、2つの支承プレート3とベッドフレーム5と旋回脚ロッド9とガスばね11とから成る機構が収容部内部に嵌め込まれる。

【0029】

この場合、支承プレート3はそれぞれ側面23によって、壁にねじ結合されたU字形固定

50

部材 2 の案内面 2 1 にもしくは案内面 2 2 に当て付けられる。この場合、案内面 2 1 , 2 2 はその形状に基づいて支承プレート 3 の側面 2 3 用のガイドとして作用する。更に U 字形固定部材 2 は当付け面 2 0 によって支承プレート 3 に被せられる。

【 0 0 3 0 】

第 5 図から明らかなように、支承プレート 3 の厚さは、ウェブの突出量ひいては、U 字形固定部材 2 の取付け状態でそれぞれベッド収容部の壁と当付け面 2 0 との間で生ずるギャップの幅に相応している。従って支承プレート 3 はその側面 2 3 によって U 字形固定部材 2 の案内面 2 1 , 2 2 に沿って押込み可能でかつこの場合ベッド収容部の側壁に対して横方向でも遊びなく案内される。

【 0 0 3 1 】

U 字形固定部材 2 の孔 1 5 a , 1 6 a が支承プレート 3 の孔 1 5 b , 1 6 b と整合した場合には、支承プレート 3 ひいてはこれに取付けられた折り畳み式ベッド・機構は正確に調整される。この位置で支承プレート 3 はねじ結合部材 1 5 , 1 6 によって U 字形固定部材 2 にねじ結合されて、収容部の壁に固定される。

【 0 0 3 2 】

折り畳み式ベッドの重量を支持する必要がある場合には、支承プレート 3 は孔 1 7 a , 1 7 a において付加的に壁にねじ結合することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】固定部材及び保持部材を有する折り畳み式ベッドを組込状態で示した図。

【図 2】U 字形固定部材として構成された固定部材の平面図。

【図 3】第 2 図の U 字形固定部材の側面図。

【図 4】支承プレートとして構成された保持部材の平面図。

【図 5】第 2 図の U 字形固定部材に第 4 図の支承プレートを被せ嵌めた側面図。

【符号の説明】

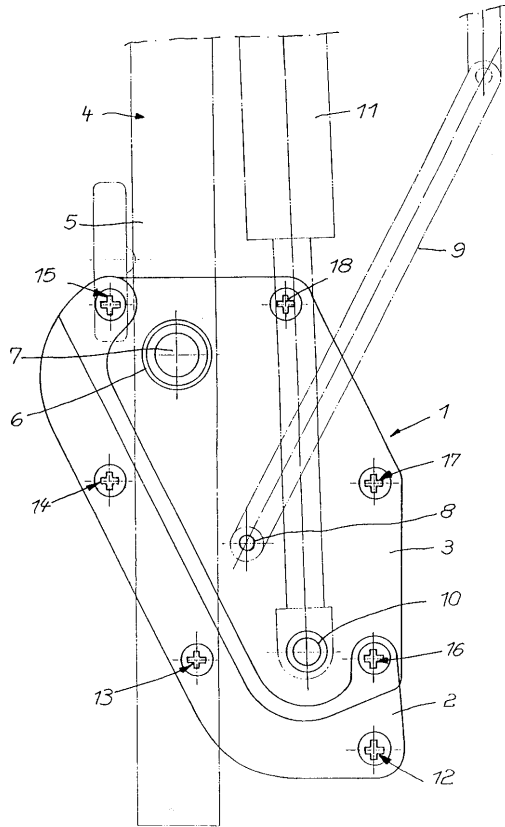
- 1 取付け具
- 2 固定部材
- 3 保持部材
- 4 折り畳み式ベッド
- 5 ベッドフレーム
- 6 支承アイ
- 7 , 8 , 1 0 支承軸
- 9 旋回脚ロッド
- 1 1 ガスばね
- 1 2 , 1 3 , 1 4 , 1 5 , 1 6 , 1 7 , 1 8 ねじ結合部材
- 1 2 a , 1 3 a , 1 4 a , 1 5 a , 1 6 a , 1 7 a , 1 8 a 孔
- 1 9 ウェブ
- 2 0 当付け面
- 2 1 , 2 2 案内面
- 2 3 側面

10

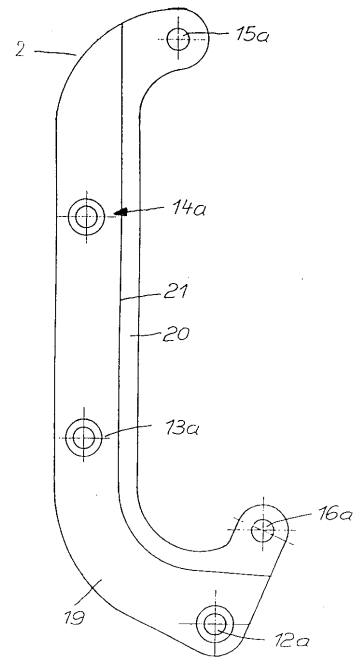
20

30

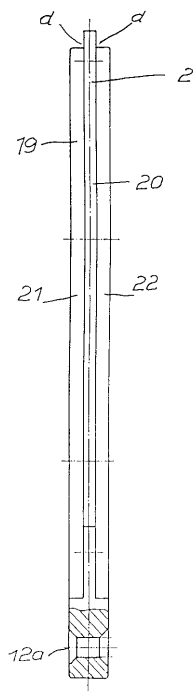
【図 1】



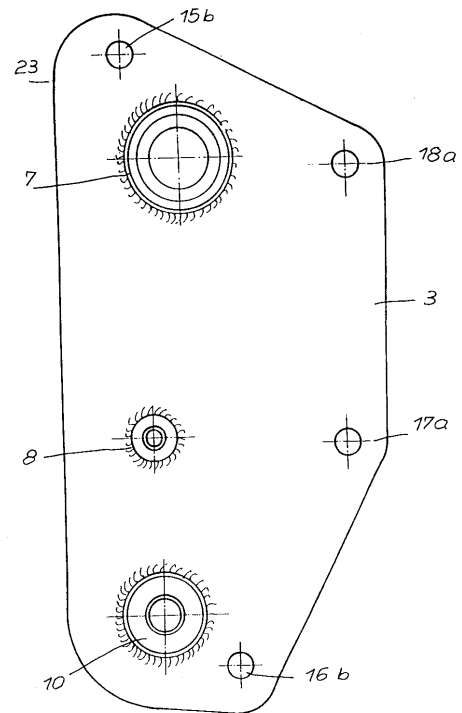
【図 2】



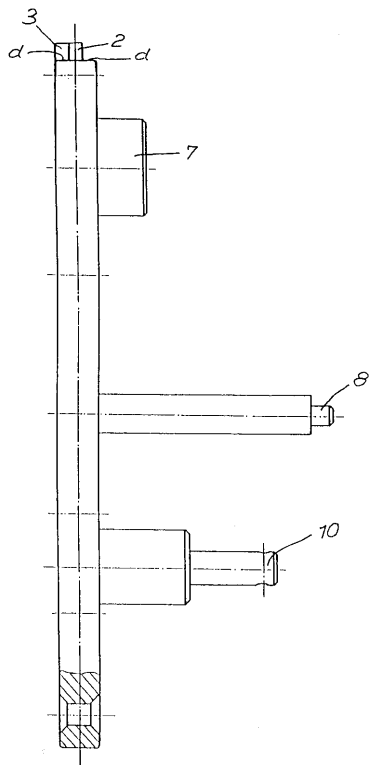
【図 3】



【図 4】



【図 5】



フロントページの続き

(74)代理人 230100044

弁護士 ラインハルト・アインゼル

(72)発明者 ウルリッヒ リーグラー

ドイツ連邦共和国 イェッティンゲン アム ペルクレ 8

(72)発明者 ヴォルフラム ベットヒャー

ドイツ連邦共和国 メツィンゲン テックシュトラッセ 3

審査官 富岡 和人

(56)参考文献 特開昭63-305817(JP,A)

西独国特許出願公開第02056426(DE,A)

米国特許第04899420(US,A)

特開昭62-145551(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl.⁷, DB名)

A47C 17/38

A47B 5/04

A47C 17/52